

池中だより 2号

令和4年 4月26日

4月15日の5・6校時に、新入生との対面式と部活動紹介を実施しました。1年生は対面式を通して、池田中学校の生徒になった自覚を一層深めたり、先輩たちの部活動紹介を通して、部活動への理解や意欲を高めることができました。一人でも多くの新入生が部活動に参加し、より充実した中学校生活を送ることを願っています。

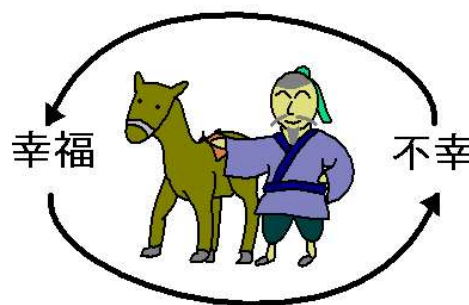


私の好きな言葉に、「人間万事塞翁が馬」という中国のことわざがあります。人生で起こる幸運や不幸は予測できない。もし、悪いことがあってもそれが良い方向につながることもあるという意味です。

コロナ禍での学校生活は、確かに私たちを苦しめています。しかし、コロナ禍だからこそ良かったこともあったのではないかと私は思います。学校で言えば、一人1台タブレットが入り、ICT環境が劇的に整いました。

個人や各家庭で言えば、例えば、家族で過ごす時間が増えたとか、健康をより意識するようになってインフルエンザにかからなかったとか、読書や趣味に時間がさけられたとか、コロナ禍だからこそできたこと、わかったこともあるに違いありません。

新入生のみなさん、新入生テストの結果やスポ少とは違う部活動など、学校生活において、自分の思うようにいかないことは沢山あります。理不尽なことも起こるかもしれません。しかし、ここで経験したことは決して無駄になることはありません。池中での経験は、皆さんの人生において、大いなる学びとなり、豊かな人生を切り拓いていく力になることと信じています。



昔、中国北方の塞（とりで）近くに住む老人（塞翁）の馬が、胡の地方に逃げ、人々が気の毒がると、老人は「そのうちに福が来る」と言った。
やがて、その馬は胡の駿馬を連れて戻ってきた。
人々が祝うと、今度は「これは不幸の元になるだろう」と言った。
すると胡の馬に乗った老人の息子は、落馬して足の骨を折ってしまった。
人々がそれを見舞うと、老人は「これが幸福の基になるだろう」と言った。
一年後、胡軍が攻め込んできて戦争となり若者たちはほとんどが戦死した。
しかし足を折った老人の息子は、兵役を免れたため、戦死しなくて済んだ。